氏　　名	合 格 論 文

部　　門	都市計画及び地方計画
受験番号	

問題Ⅰ　解答用紙

1.

【経験業務その１】 1 （業務実績証明書記載欄の番号を記入）

（1-1）業務の名称

都市計画基礎調査（●●他）

（1-2）発注者名

●●県都市計画課

（1-3）履行期間

平成２６年４月～８月

（2）業務の目的

本業務は、少子高齢化・人口減少・都市部への人口流出に伴う都市計画区域の都市構造変化や、南海トラフ地震を見据えた都市計画マスタープランの見直しのための情報収集を行うものである。

（3）業務の内容

都市計画区域において、人口・産業・住宅・地価・土地利用・建物・都市施設・交通・災害等について各機関に対して調査を行った。その上で過去のデータとの比較・集計等を行い、目指すべき都市像のための方向性・現行マスタープランの改善点を策定した。

（4）あなたの果たした役割

私は、担当者として主要な打合せに全て参加し、業務の技術的課題や業務実施上の問題点の早期発見・解決を行うことで管理技術者を補佐した。

―裏面に続く―（第１面）

【経験業務その２】 3 （業務実績証明書記載欄の番号を記入）

（1-1）業務の名称

●●他４都市道路計画検討

（1-2）発注者名

●●県都市計画課

（1-3）履行期間

平成２６年４月～１０月

（2）業務の目的

本業務は、近年進んでいる高速道路延伸・郊外型大型店舗立地・少子高齢化等の都市構造の変化を把握し、道路網における今日的な課題を検討するに充分な情報収集・整理を行うことを目的としている。

（3）業務の内容

５つの都市計画区域とその縁辺部において、人口・産業・景観・土地利用・建物・都市施設・公共交通・災害に関する項目について調査した。その上で過去のデータとの比較・集計等を行い、目指すべき道路網のための方向性・現行マスタープランの改善点を策定した。

（4）あなたの果たした役割

私は、担当者として主要な打合せに全て参加し、業務の技術的課題や業務実施上の問題点の早期発見・解決を行うことで管理技術者を補佐した。

2.

【経験業務その３】 2 （業務実績証明書記載欄の番号を記入）

（1-1）業務の名称

●●津波避難計画策定

（1-2）発注者名

●●市役所防災対策課

（1-3）履行期間

平成２６年４月～２６年９月

氏　　名	

部　　門	
受験番号	

問題Ⅰ　解答用紙（その２）

（２）業務の目的

本業務は、●●市●●地区において既存津波避難ビル等を調査し、南海地震発生時における津波避難のあり方を検討し、避難計画を策定するものである。

（３）業務の内容

既存資料調査・現地踏査を行い、既存津波避難ビル・道路状況・既存施設等を確認した。また、住民とのワークショップを開催し、現況の問題点・今後目指すべき方向を共有し、その結果を津波避難計画にまとめた。

（４）あなたの果たした役割

私は、担当者として主要な打合せに全て参加し、業務の技術的課題や業務実施上の問題点の早期発見・解決を行うことで管理技術者を補佐した。

（５）技術上の問題点とその対応

避難場所である公民館・避難ビル・避難タワー等へ住民が避難する場合、基本的には徒歩としたが、高齢者・障がい者等においては自動車による避難も予想された。そこで避難方向・走行経路を予測しようとした場合、自動車が通行できる道路と通行不能な道路の区分が存在しなかったため、避難経路の予測が出来ないことが問題となった。そこで、以下のデータを入手した。

①ＧＩＳデータから２ｍ以上の道路を抽出

②自動車走行記録プローブデータを入手し、走行履歴の有無を把握

③ＧＯＯＧＬＥストリートビューで道路幅員を予測

④自動車が走行可能な道路を住民へ聴き取り

上記を基にし、実際に現地で確認した上で自動車が走行可能な道路を抽出した。結果として自動車移動による避難経路・場所の特定ができた。

―裏面に続く―（第３面）

（６）業務の実施上の問題点とその対応

避難計画を策定したり、ワークショップを開催する際には、当該地域の人口・年齢構成・建物種類・学校所在場所・地域の世話役連絡先等を入手する必要があった。各データは市役所の各支所から提供してもらい、発注者である市役所が取りまとめて、データが揃い次第市役所から提供・貸与してもらうことになっていた。
しかし、必要なデータが中々揃わなかったため、結果として工期に間に合わなくなることが予見された。
そこで私は、発注者から各支所の責任者の連絡先を教えてもらい、各支所へ自ら出向き、連絡責任者だけでなく各データの担当部門それぞれに各データの提供の時間短縮をお願いし、データを入手して回った。
上記により、必要なデータは早急に入手でき、業務の中断も無く工期内に業務を終了できた。

（７）上記（５）（６）の対応について、現時点での評価

（５）への対応については、やみくもに現地で走行して自動車通行可能な道路を把握するのでなく、あらかじめ走行可能な道路を予測することで調査時間を短縮できたと評価している。改善点としては、詳細な航空写真を使用して地形の輪郭を自動抽出することでＣＡＤにより道路幅員を詳細に把握できると考える。
（６）の対応については、待ちの姿勢でなくデータ提供責任者・担当者へもこちら側からデータ提出を促すことで工期厳守が実現したので、そのことについては評価できると考える。
改善点としては、人口や自動車保有数データ等についてはインターネットによって予め概略の数量を把握し、後に詳細データで訂正することで更に作業効率の改善が出来ると考える。以上。